

いな穂

Vol. 5

平成 28 年
1 月号

基本理念

自由（個人の尊重を重視）、
自立（社会支援の積極的な取り組み）、
愛（思いやり溢れるサービスの提供）
を不変のテーマとした医療・保健・
福祉の実践

基本方針

地域に根ざした医療、人にやさしい医療を
確立し、向上心をもって常に努力する

七指針

1. 生命尊重に徹すること
1. 事故防止に努める事
1. 常に創意工夫を怠らないこと
1. 能率増進を図る事
1. 常に融和連携を保つこと
1. 消費節約に努める事
1. 行動記録を的確に記すること

あけましておめでとうございます。



新たな時代を模索して

医療法人慧眞会 理事長 穂積 慧

いよいよ高齢化社会を皆が意識するようになって来た。高齢化率も50年前に比べ4倍近くになり、平均寿命が伸びてきている。2025年には第1次のベビーブームが、後期高齢者に入る時期で、2048年には第2次ベビーブームが後期高齢者に入る時期。2025年を過ぎると、人口はかなり減少となり増える要素はない。そして1人の高齢者を1,2人の若者が支えるという構図となる。この構図からも解るようにこれからの我々の方向性も垣間見られると思う。

精神科病棟においては短期入院患者が増え、長期入院

患者が減ってくる。そして、治療法も非定型抗精神病薬が中心となり、統合失調症の入院患者数は激減する一方、認知症、気分障害患者は増える可能性が大である。現在も精神科一般病棟では、1年で退院する方が増えているが、認知症の方は退院出来ずにいる。この事からも地域包括支援モデルをきちんと構築し、いかに地域に浸透してゆくかが課題となる。

当方においては、人材の確保、育成と専門性への特化。地域特性に合わせた病棟の転換等を推し進めてゆく年となるであろう。

名優、高倉健が亡くなって1年が経ちます。38年前の主演映画「幸福の黄色いハンカチ」の冒頭で、刑期を終えて出所したばかりの島勇作（高倉健）が、食堂でラーメンとカツ丼を食べるシーンがあります。無愛想な女性店員についてもらったビールをゆっくりと味わうように飲み干した後、ラーメンを一気呵成にすすり、カツ丼を口に掻き込む姿が長い刑務所生活を連想させる名シーンです。

昨年10月、秋田刑務所を見学させていただく機会があり、受刑者の刑務作業の光景を目の当たりにしました。作業を黙々とこなしている姿には、緊張感と悲壮感が伝わってきました。途中何度か受刑者とすれ違いましたが、薄暗い質素な廊下に物々しい号令が響きます。プライバシー保護のためでしょうか、受刑者が壁側を向いて待機していました。居室には個室と大部屋があり、制限はあるもののテレビや雑誌類が置かれ僅かに生活の臭いを感じました。

その後、会議室で改善更正に向けた取り組みについて説明を受けましたが、成果を上げているケースもあれば、残念ながら再犯に至ったケースも多く、社会復帰への困難さに直面している印象を受けました。

刑務所とは罪の償いを行うべき場所であり、それが前提で運営されています。無論、刑期を終えただけで、「償い」を終えるとは思えませんが、再犯を防ぐには「罰」を与えるだけでなく、「愛」もまた大きな力にな